

P1~3・6 企画展
大津の都と白鳳寺院

P4 ミニ企画展
都へのまなざし
三井寺の近世絵画

P5 収蔵品紹介

大津歴史博 だより

《大津京遷都1350年記念》企画展

大津の都と白鳳寺院

平成29年10月7日(土)~11月19日(日)



重要文化財 銅造観音菩薩立像 白鳳時代 眞光寺蔵
比叡山麓に伝わる7世紀の金銅仏

大津の都と白鳳寺院

会期：10月7日（土）～ 11月19日（日）
【休館日：月曜日（10月9日を除く）、10月10日】

大津は今から1350年前に都が置かれ、我が国の中心地でした。天智天皇6年（667）3月19日に、天智天皇は飛鳥から大津に遷都したのです。それが近江大津宮、いわゆる「大津京」です。この頃、朝鮮半島では日本と親しい関係にあった百濟くだら、さらには高句麗こうくりが、唐しらぎと新羅によって滅ぼされ、朝鮮半島は新羅によって統一されました。それにともない、大陸から多くの人々が近江国に移り住み、様々な文化がもたらされました。大津は国際色豊かな都だったのです。

特に、我が国の歴史の転換期ともなった7世紀中頃から後半にかけては白鳳時代とも呼ばれますが、塑像そぞうや埴せんぶつ仏、そして乾漆かんしつぷつ仏といった新しい仏像の技法が伝わり、豊かな仏教文化が開花しました。『日本書紀』によれば、大津の宮殿内には仏殿があり、さらに繡しゅうぶつ仏（刺繍で造られた織物の仏像）が掛けられていたそうです。さらに、宮殿を囲むように白鳳寺院が数多く造営されたこともわかっています。例えば、南滋賀町廃寺には、蓮の花を横から見た文様を描く唯一無二の方形瓦かたがが葺かれ、穴太廃寺ではほとんど例のない銀製の押出おしだし仏が見つかっています。さらに崇福寺跡からは、タイル状の仏像である埴しん仏が出土し、多数の半立体的な如来像がお堂の壁一面に貼られていたと想像されます。これを見ると、実に先進的で個性的、バリエーション豊富な寺院造営がなされていたことがわかり、活況を呈していた当時の様子を知ることができます。また、園城寺は天智天皇ゆかりの弥勒菩薩像（金銅仏、絶対秘仏）を本尊とし、奇跡的に現在も同じ場所で法灯を護り続けています。そして、遷都の際、飛鳥から三輪明神が日吉社の大宮として勧請された比叡山ひえいは、都を護る山として崇められ、周辺にはこの頃の金銅仏が4軀も現存しています。さらに壬申じんしんの乱で戦場となった勢田橋せいた（瀬田橋）に近接する石山寺にも、飛鳥～白鳳時代の金銅仏がたくさん伝来しています。5年半ほどの短命な都だったため、残念ながらその所在地や呼び名を含めていまだに謎だらけです。都の遺物がほとんどみつからず、いま我々が接しうる史料の記述や伝承、遺物などどれも間接的な断片であり、実態の解明はまだまだ手の届かないところにあるといってもいいでしょう。ですが、これら白鳳寺院の遺物により、多少ではありますが当時の都の様子を垣間みることができます。今回は、近江神宮をはじめとして地元の天津市や滋賀県の施設で管理されている遺物をできる限り展示する予定です。

さらには、白鳳～奈良時代をはじめとして、中国の隋ずい～初唐時代や朝鮮半島の三国時代（百濟・高句麗・新羅）～統一新羅時代を中心に造られた、金銅仏や塑像、埴しん仏といった、7～8世紀の様々な仏像を展示します。大津に都があった頃の、華やかだった仏教文化の香りを紹介したいと思います。

【インフォメーション】

観覧料：一般 1000円（800円） 高大生 600円（480円） 小中生 200円（160円）

※（ ）内は、前売り、15名以上の団体、または天津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障がい者の方、市内在住の介護保険の要介護者・要支援者の方の割引料金。

主 催：天津市、天津市教育委員会、天津市歴史博物館、京都新聞

協 力：石山寺、近江神宮、園城寺、比叡山延暦寺、湖信会、対馬市、対馬市教育委員会

企画展「大津の都と白鳳寺院」の展示構成

- I 大津遷都前史 1. 花開く渡来文化 2. 飛鳥宮 3. 難波宮
- II 大津遷都、そして壬申の乱
1. 天智天皇と近江大津宮の造営、2. 藤原鎌足—阿武山古墳・多武峰・山階寺—、3. 大友皇子と壬申の乱
- III 大津の都と周辺寺院
1. 崇福寺、2. 南滋賀町廃寺、3. 穴太廃寺
4. 比叡山 坂本廃寺・日吉社、5. 園城寺・長等山
6. 大津の白鳳寺院—真野廃寺、衣川廃寺、大津廃寺、膳所廃寺、石山寺、東光寺、石居廃寺、山ノ神遺跡—
- IV 大津宮時代の仏教文化
1. 飛鳥の寺院 ①川原寺、②山田寺、③橘寺
2. 7～8世紀の仏像 ①塑像、②埴仏、③金銅仏、④石仏と木彫
- V 大津宮から平安京へ（大津宮逍遙）—梵釈寺、比叡山寺—
- VI <同時開催ミニ企画展コーナー> 会期：平成29年9月26日（火）～11月26日（日）
都へのまなざし—大津宮の研究と発掘—



大友皇子像 江戸時代 法傳寺蔵



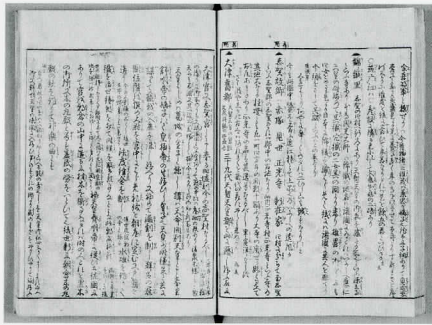
如意輪観音半跏像 朝鮮三国時代
京都市・妙傳寺蔵

都へのまなざし —大津宮の研究と発掘—

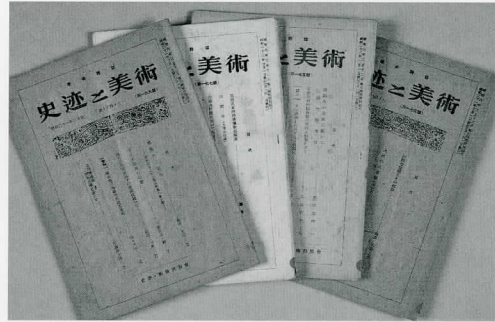
会期：9月26日（火）～ 11月26日（日）

【休館日：期間中の月曜日（10月9日を除く）、10月10日、11月24日】

壬申の乱（672年）以降、廃都となった大津宮はその所在地も忘れ去られていきます。江戸時代には、『近江輿地志略』（寒川辰清）の巻14に「大津舊都」として「錦織村の内に御所跡と号する処あり、是大津の都の跡なりと云」と記述された他、『近江名所図会』などにも記載があり、この頃には錦織村の御所跡が大津宮の跡地と考えられていたことがわかります。展示では、古代から近世までの史料に現れる大津宮の様子、明治以降の所在地論争や、昭和の発掘調査の経過などを展示し、大津宮をとりまく認識の変遷、研究と発掘の歴史を紹介します。



『近江名所図会』「大津舊都」文化11年（1814）新版 初版は寛政9年（1797）



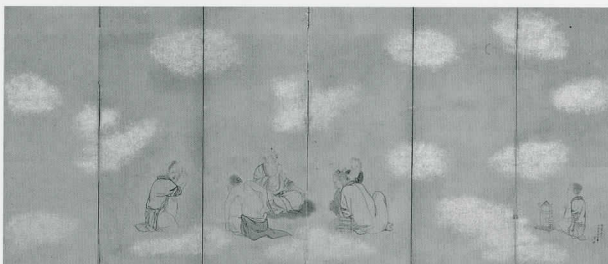
雑誌『史迹と美術』昭和20年代、大津宮や崇福寺跡に関する論考が多い。

三井寺の近世絵画

会期：11月28日（火）～ 平成30年1月14日（日）

【休館日：期間中の月曜日（1月8日を除く）、12月27日～1月5日、1月9日】

長等山系の麓に位置する園城寺（三井寺）は、非常に長い歴史を有しており、歴史を物語る様々な宝物を今に伝えています。中でも今回は、江戸時代の絵画を中心に紹介していきます。豊臣秀吉による再興された江戸時代の三井寺は、円山応挙や池大雅、鶴沢探索らによる障壁画が有名ですが、それ以外にも、岸駒や加藤文麗、横井金谷など、様々な絵師の作品が今に伝えられています。今回は、悉皆調査の結果最近見出されたものを中心に展示します。



横山清暉筆 医療図 6曲1隻 江戸時代 園城寺蔵（普賢堂）



加藤文麗筆 林和靖図 3幅 江戸時代 園城寺蔵（法明院）

地獄の名所巡り 紙本著色地獄図屏風 小野・小野南町地蔵年番蔵 江戸時代(19世紀)

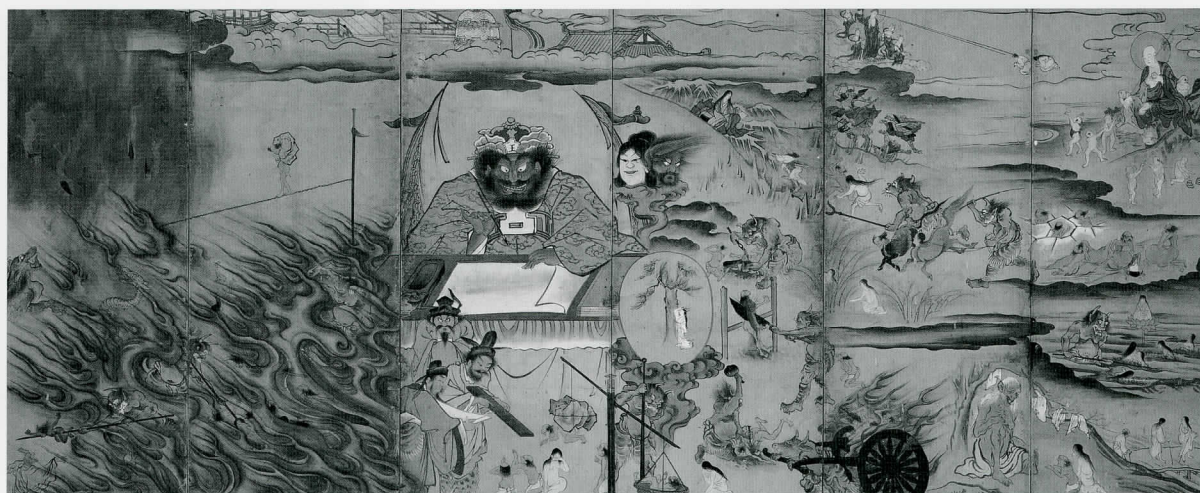
毎年8月終わり(もしくは7月終わり)に近づくと、近くのお地蔵さんに飾り付けがされ、近所の子も達が集まってきてお経を読んだり、お坊さんからお話を聞いたりするのを、近畿圏の方々であればどこかで一度は体験されたのではないのでしょうか。これがいわゆる「地蔵盆」と呼ばれるものです。大津市内でも地蔵盆は行われており、ここで紹介するのは、小野南町の地蔵堂で行われる地蔵盆で飾り付けられる屏風です。

本屏風は、恵心僧都源信えしんそうずげんしんの著した『往生要集』おうじょうようしゅうにもとづいた地獄の情景を描いたもので、画面中央には、地獄の代名詞ともいえる閻魔大王えんまだいおうが描かれています。そこでは様々な方法で亡者の罪もろじゆが裁かれ、ある者は罪の重さを示す石と比べられ、またある者は大きな鏡で生前の行ないを確認されます。今裁かれている女性は、生前に丑うしの刻参りをうしこくして誰かを呪ったことが映し出されています。画面右下には三途みつの川を渡る亡者が描かれ、奪衣婆だつえぼによって服を脱がされています。その上には血の池地獄やお腹を大きくした餓鬼がきなどが描かれます。その上には賽の河原さいが表され、石を積む子どもの姿と、その子どもを救う地蔵菩薩ぢざうぼさつが描かれます。その左下には、人の頭に獣の体をしたものが鬼に追いついて立てられたり、男たちが美女を追って葉が刀のように鋭い木が生い茂る山に登ったりしています。一方、画面の左側には、奈落ならくまで2000年ひたすら落ち続ける様子や、獄卒ごくそつなどに責められながら地獄の業火ごうかに焼かれる様子が描かれ、中には串に刺されてこんがりこんがりと焼かれている人もいます。そして画面上端には、極楽浄土を表す宮殿みやうてんが描かれており、その右側には、地獄の亡者を救済きうさいするために来迎する阿弥陀如来あみだごうらいが表されています。以上簡単に見てきましたが、本屏風は、地獄の名所巡りとも言えるような、特に有名な場面を抜き出し、屏風仕立てで絵画化したものです。

さて、小野南町には、本屏風と一緒に地蔵堂の縁起を記した巻物も伝えられています。それによれば、道光というお坊さんが中心となり、霊験ある石像を祀る堂を建立するために、比叡山の諸僧や各村々から寄付を募り、文化8年(1811)に建てられたとされています。恐らく本屏風も、それと前後して描かれたのでしょう。

当時、この地蔵堂は小野村の内と外の境界に位置しており、お堂の南には小さい川が流れています。もしかしたら、この川が三途の川で、村の内は極楽、外は地獄とあって、あまり遠くで遊ばないように子どもたちに絵解きしていたのかもしれませんが。

(学芸員 鯨井 清隆)





銀製押出仏（穴太廃寺出土）
白鳳時代 滋賀県立安土城考古博物館蔵



大津市指定文化財 側面蓮華文方形軒瓦
（南滋賀町廃寺出土）白鳳時代 近江神宮蔵



塑像断片（川原寺裏山遺跡出土 神将像の甲）
白鳳時代 明日香村教育委員会蔵（関西大学
文学部考古学研究室保管）



塑像断片（雪野寺跡出土 等身大の像の左目）
白鳳時代 東近江市・福命寺蔵

利用案内



交通機関

- ・京阪電鉄石山坂本線別所駅 徒歩5分
- ・JR 大津京駅 徒歩 15分

駐車場 約 70 台（無料）

■常設展示観覧料

区分	個人	団体(15名以上)
一般	320円	250円
高校生・大学生	240円	190円
小学生・中学生	160円	120円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方は一般料金の半額。
- ◆市内在住の障がい者の方、市内在住の介護保険の要介護者の方・要支援者の方は無料（証明するものをご提示ください）。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

■開館時間

午前9時～午後5時（展示室への入場は午後4時30分まで）

■休館日

月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館）
祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）
年末年始（12月27日～1月5日）館内点検（6月）
その他、業務の都合により休館する場合があります。

—— 歴博カードのご案内 ——

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。（1年間有効）

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号
TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

大津歴博だより No.108 平成29年9月1日